



の園だより

令和5年5月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

児童遊園に向かう1歳児が、担任保育士に抱っこしてもらいたくて泣いていました。手つなぎで両手がふさがり対応出来ない状況だったので「抱っこしようか、おいで」と担任保育士に代わって声をかけると、首を振って“イヤ”の意思をハッキリ伝えます。“抱っこって言ったって誰でもいいわけではないんだから”と心の声が聞こえてきそうな表情でした。泣きながらも児童遊園まで到着すると「自分で歩けたね」と保育士に気持ちを救ってもらうことで落ち着き、その後、元気に遊び始めていました。

新年度のスタートからひと月、子どもたちが保育園生活の中でどれだけの『安心』を感じているだろうかと思いを巡らせます。好きな遊びができ、毎日過ごす仲間を認識し、気持ちを受け止めてもらいたい時に頼る大人とそうでない大人とをしっかりと区別し、少しずつ行動範囲を広げながら新しい環境をその子のペースで受け入れてきた1か月間でした。職員間で子どもの姿を伝え合い、一人ひとりに見合った関わりや援助を見出していく中で、喜びだけでなく、悲しみ、悔しさ、怒りなどあらゆる感情に丁寧に向き合っていくことを確認しました。

園目標『心身ともに健康な子ども』を目指し、子どもたちの育ちと照らし合わせて常に保育内容の振り返りと見直しを行いながら、日々の保育を積み重ねていきます。



10日(水) 春の遠足(4・5歳児クラス)

18日(木) 3歳児クラス懇談会

19日(金) 2歳児クラス懇談会

23日(火) 0歳児クラス懇談会

26日(金) 4歳児クラス懇談会



ドキドキ

新しいクラスはどんなクラスかな

わくわく

0歳児クラス(つぼみ組)

保育園生活に一日一日と慣れ、笑顔で過ごす時間が増えてきました。玩具に手を伸ばし“なんだろう”と興味を持って触れたり、仰向けの姿勢からコロんと寝返りしてうつ伏せになると、目を大きく見開いていつもと違う景色を楽しんだりしています。名前を呼ばれると目と目を合わせて笑い返し、日頃関わっている保育士をしっかり認識するようになりました。天気の良い日にはバギーに乗って近隣散歩にも出掛けています。

保育士に気持ちを委ねることで心も体も満たされ、一人ひとりが安心して過ごせるよう丁寧に関わっていきます。



1歳児クラス(ちゅうりっぷ組)

新入児4名を迎えて13名でスタートしました。進級児は新しい友達の傍に行くと優しく背中を撫でてみたり、保育室から移動する際は、保育士が呼び掛けるのを真似て「おいでー」と呼んだり、互いの存在を気にかけてながら過ごしています。戸外遊びの児童遊園では、シャベルで土を掘るとダンゴムシが何匹も出てきます。保育士が手に乗せて見せると「いらない いらない」と後ずさりする子や、ダンゴムシが動く様子をしばらく見てから人差し指でそっと触れてみる子など、生き物を前にして見せる姿は様々です。

探索しながら歩くことを楽しみ、自然に触れる中で子どもたちが興味を示したことに共感しながら一緒に楽しんでいきます。

2歳児クラス（たんぼぼ組）

近隣散歩に出かけ、消防署で大きな消防車を見ました。ピカピカに磨かれた消防車を見て、子どもたちは「すごいねー」「のってみたい」とワクワクした表情です。帰園後、早速押入れのスペースを消防車に見立てて遊び始めました。「ウ～ カンカンカン」「かじです かじです」と消防士になりきっている友達を見て影響された子が、ブロックを丸くつなげてハンドルを作り、隣に座って運転したり、ハンカチを消防士のヘルメットのようにかぶって遊ぶ子もいて「ウ～ カンカンカン」の大合唱です。友達と一緒に見たもの、感じたことを“やってみよう”と遊びの中で再現して楽しんでいます。

戸外にたくさん出掛け、保育士や友達と一緒に新たな発見を喜び合いながら楽しめるようにしていきます。



3歳児クラス（さくら組）

保育士と一緒にアイス屋さんを始めた子がいました。「いらっしゃいませ」「どれにしますか」と元気に声を出している姿を見て、友達がエプロンと三角巾をつけて「入れて」と来ました。二人ともお客さんにアイスを渡したくて場所の取り合いになったため、保育士が「ここでレジをお願いしてもいいかな」と声をかけると「わかった」とそれぞれの係が決まりました。お店は列ができる程の人気店となり「〇〇円です」「はい どうぞ」と張り切ってやり取りを楽しんでいます。

友達と一緒に遊ぶ経験によって、同じイメージを持って楽しめる場面も増えてきました。保育士が子ども同士をつなぐことで、一緒に遊ぶ楽しさをより一層感じられるようにしていきます。

4歳児クラス（すみれ組）

すみれ組に進級した日に【だいじばこ（自分の作品を入れる大事な箱）】の話をしました。子どもたちに「どうしてすみれ組には『だいじばこ』があるかわかるかな」と聞くと「すみれ組になって大きくなったから」「お兄さん・お姉さんになったから」という答えが返ってきました。毎日箱の中を確認することを伝えると、自分専用の箱が出来たことに喜びを感じながら「きれいかな」とよく見えています。だいじばこを活用することで、物を大切にできる力を育てていきたいと思っています。

毎日の生活の中で友達や保育士と様々な喜びを共有し、意欲を持って過ごせるような援助や関わりをしていきます。



5歳児クラス（ひまわり組）

ひまわり組になり、本格的に当番活動が始まりました。各クラスを回って登園人数を聞き、調理室や事務所に報告します。「今日は人数報告の日だよ」と当番の自覚を持って過ごし「先生、人数報告の時間だよ」と自ら気付いて声を掛けてくることも増えました。午睡後のコット片付けでは、自分の支度を済ませると「お手伝いに行きます」とさくら組のコットを片付けに行き、眠そうな子に「起きられる。眠いね」「一緒に起きよう」と優しく声を掛けています。周りの職員から「ありがとう」とお礼を言われると「ひまわり組だからね」と嬉しそうに答える姿からは、ひまわり組になったという誇らしい気持ちを感じられます。

年長児としての活動や周りの手伝いを通して園内の様々な職員や友達との関わりを深め、自分の行動が誰かの役に立つ喜びを感じられるように援助していきます。